



2019年度 一般社団法人 小樽青年会議所 スローガン

信念ある決断を

～人々が幸せに生きる小樽の創造に向けて～

題字：鹿角 健太

いぶき



【はじめに】

改めまして、一般社団法人小樽青年会議所第65代理事長を預からせていただいております、鹿角健太と申します。2019年度も半年が過ぎましたが、日頃より、一般社団法人小樽青年会議所の運動、活動に対しまして、格段のご指導、ご鞭撻を賜り衷心より厚く御礼申し上げます。

半年を振り返りますと、この度のいぶきにてご報告させていただいておりますが、1月から6月までの間に例会やセミナーなど様々な事業を行いました。ご報告させていただいている事業や活動の他にも各地青年会議所様の新年交礼会やじゃがいもクラブの50周年サーキットでハワイに行かせていただいたり、公益社団法人日本青年会議所や公益社団法人日本青年会議所北海道地区協議会の会議や事業にも数多く参加させていただきました。

それぞれが大変貴重で多くの気付きがあるものであったと確



第65代 理事長
かづの けんた
鹿角 健太

信しておりますが、日々の活動の中で、次に行う事業や活動のほうに考えがシフトしていき、ゆっくりと振り返る機会を持っていなかったのではないかと反省し、改めてこのご報告の機会に半年間の事業や活動のことを振り返らせていただきました。各事業ごとのご報告は本誌に記載されておりまして、私からはご報告させていただきませんが、例会において小樽市長迫俊哉様にご講演いただき、行政と青年会議所の関係性を構築していく契機になったことやSDGsや会員拡大への取り組み強化など、小樽を持続可能なまちにするために前へと進ませていただいております。

そして、SDGs、会員拡大に関しては、今後も取り組みを強化していきたいと考えております。

【SDGsについて】

本年度、公益社団法人日本青年会議所は、社会を発展させることにより経済を発展させていくため、日本一のSDGs推進団体になるべくSDGsの推進を力強く進めております。本年1月には、公益社団法人日本青年会議所と外務省との間で、「持続可能な開発目標（SDGs）」推進におけるタイアップ宣言」もなされました。

小樽青年会議所においても、消滅可能性都市といわれている小樽を持続可能なまちにするために、SDGsを推進してまいります。

今後のまちづくり系の事業では、観光都市である小樽を住み続けられるまちにするため、また、まちのために共に活動する地域の経済人、学生、行政、多くの方々とパートナーシップを構築するという目標を掲げ行ってみようと思います。多くの方々に参加していただき、SDGsの実現に向けた活動を知っていただきたいと思っております。乞うご期待ください。

【会員拡大について】

会員拡大は、青年会議所の運動の中でも重要性が高く、すべての青年会議所が例年取り組んでおります。小樽青年会議所も会員拡大をずっと継続して行っており、会員数は右肩下がりで減少しております。メンバーの在籍年数の短期化の問題もあり、会員数の減少傾向は今後も継続していくことが予想されます。今後も同じようなペースで減少していきますと数年後には小樽青年会議所を存続できず、消滅してしまう可能性もあります。決して大げさなことではありません。同じ北海道で活動していた青年会議所が一つ、

また一つと毎年解散していく厳しい状況が現実としてあります。本年度は、会員拡大に特化した会員拡大委員会を設置し、拡大目標を15名と掲げ、会員拡大に取り組んできました。現在11名の新会員の方に入会していただきましたが、目標に向け、今後もメンバー一丸となり、会員拡大を進めていく所存でございます。

小樽のことを真剣に考え、行動する人が増えていけば、小樽の未来は明るいものとなります。我々は、もっと多くの同志と小樽について真剣に語り合い、一緒に行動していきたいと思っております。自分たちが住み暮らす小樽のために何かやりたい、という思いを少しでもお持ちの方がおられましたら是非ご紹介していただきますようお願い申し上げます。

【さくらに】

青年会議所は、単年度制という制度を採用し、毎年役職が変わり、その都度、所信やスローガンが掲げられ、それらに基づいて事業や活動が実践されていきます。事業や活動の中には、毎年実施させていただいているものもあれば、新たに構想、構築されるものもあり、様々です。初めて経験する役職に就いたときから1年という限られた時間の中で、いくつもの事業計画、

実施をしていくことは、簡単なことではございません。しかし、新たな役職は、様々な経験や気付きを新たに得ることができ、メンバー個人、そして組織として成長することにつながります。この半年間、本年度のスローガンである「信念ある決断を」人々が幸せに生きる小樽の創造に向けて」のもと、メンバーのため、家族のため、小樽のため、誰かのために信念をもった決断をし、行動してきたことは、メンバーにとっても、組織にとっても大きな資産になっていることと思っております。残り半年、小樽の未来のために、信念を持った決断と行動により本年度の事業をやり遂げ、来年へとつなげていく所存でございますので、今後ともご指導ご鞭撻いただきましようお願い申し上げます。



1月第一例会

新年、1月12日、定時総会及び新年懇親会を開催しました。新年懇親会の設え担当は今年度一人に対する思いやりや感謝をキーワードに、小樽JC会員の様々な会員交流事業を展開していく伊藤晴竹委員長率いる「会員交流委員会」です。

第65代鹿角健太理事長率いる小樽青年会議所の2019年度の門出にあたり、来賓の皆様、小樽青年会議所をご卒業されたシニアクラブの皆様、各地青年会議所のメンバーの皆様、今年度小樽青年会議所の方針をご理解いただくとともに、新年を祝う様々なおもてなしを通して親睦を深め、ご来場された皆様に敬意と感謝の意を示すことができましたと思います。盛会裏で終了をできましたことを、改めて御礼申し上げます。



第二回新会員セミナー

1月25日、小樽運河プラザ3番庫にて、阿部委員長率いる指導力開発委員会担当による今年度入会された新会員向けに、またメンバーにとつてはおさらいということ、「第一回新会員セミナー」を開催しました。テーマは「青年会議所の知識と魅力」と題し、青年会議所の基本と魅力を理解していたいただくために、第一部「基礎知識と青年会議所ならではの魅力」をプレゼンテーションで伝え、第二部では監事の大川晃弘君が講師として「実践を通して感じた青年会議所の魅力」というテーマのもと、現役会員による講師のため、共感できる部分、どのような思考で自社に還元しているかなど、本セミナーでは入会された新会員の皆様には勿論のこと、既存メンバーにとつても青年会議所の基礎知識を再確認することができました。また講演では現役会員による講師のため、共感できる部分やどのように青年会議所で学んだことを自分の会社でフィードバックしているかなど、各会員が自分の活動の在り方を今一度考えさせられた貴重な時間となりました。

2月第一例会

2月7日、JCオープニングを行い、2月8日から17日までの10日間、今年度21回目となる小樽雪あかりの路2019へ参画いたしました。今年度も小樽二トリ芸術村会場にて総務委員会、会員交流委員会、会員拡大委員会、持続可能な地域創造委員会がそれぞれオブジェを製作し、指導力開発委員会は新会員が中心となってチューブすべり台作成、また本年の新たな取り組みとして、大川監事、渡邊監事が中心となり出店をいたしました。大人も子供も楽しめるチューブすべり台は今年度も大変喜ばれており、三つのオブジェにも関しても熱心に写真を撮られる方が非常に多かったと思います。出店は多くの方に暖まっていただけでなく休憩所となり、昨年は会場変更やオリンピックの影響もあって、来場者が少ない傾向にありましたが、今年度は昨年と比べると徐々に増えている傾向にあったと思います。また、市民の皆様が一人でも多く参加していただけるよう、持続可能な地域創造委員会を中心に市内の小学校や施設でワークスボウルやオブジェの製作の協力として、出前も行いました。多くの方々にご協力いただきましたこと心より感謝申し上げます。

3月第一例会

3月13日、小樽いなきたコミュニティセンター5階の一号集会室にて、中村委員長率いる会員拡大委員会による3月第一例会「価値を伝えて成果をあげるマーケティングセミナー」を開催しました。こちらの事業では中村委員長自らコーディネーターを務め、中村委員長自身の様々な経験談や自社における成功例から紐づけされた、人に対しての伝え方や考えた方。今後の新しい会員拡大の考え方について、第一部プレゼンテーション「物を売るな、体験を売れ」と題し情報発信に必要な三大要素、誰れ、何を伝え、どうしてもraitたいのか、という情報発信を行っていくために必要な考え方とスキル、重要性を学びました。第二部、「ワークショップ」では第一部の内容を深めるため、ワークショップシートにJCの拡大行動について置き換えて、三人一組でディスカッションし発表をしました。次に第三部のプレゼンテーション



「個の影響力を高めるためのセミナー」では、青年会議所の活動だけではなく、会社での活動、考え方、理念などを、個性的で魅力的な「ひと」を中心とした発信をすること、ターゲットとなる手経営者からの共感と関係性を築く重要性を学び、三部構成の講演で非常に理解しやすい事業となりました。また本年度入会の新会員の佐々木君が会長、柴田君が副会長と決まり会名は「華明会」と発表されました。



4月第一例会

4月4日、小樽運河プラザ3番庫にて池田委員長率いる持続可能な地域創造委員会の4月第一例会を開催しました。テーマは持続可能なまち「小樽」に向けて「フットスポートからファンプレイスへと題し、第一部プレゼンテーション「消滅可能性都市から持続可能な明るい豊かな社会へ」では、小樽市が「消滅可能性都市」である

という現実や危機感、それを解決していくためのプラン、今年度から国連で定められたSDGsを反映させ、どのように打開をしていくのか、また、その他のまちや国で実行されている成功例などをプレゼンテーションで説明し、様々な観点から小樽の現状について学びました。今年度、持続可能な地域創造委員会では小樽運河にフォーカスを当て、大きなイベントを計画しており、改めて小樽運河の魅力をメンバーに知っていただきたいという想いから第二部は小樽運河視察と題し、参加メンバー全員でカナルボートに乗船し、小樽運河が魅力的であるかということを理解しました。この事業を通して小樽が持続可能なまちになっていく一助となるよう、小樽のために小樽青年会議所が丸となったて頑張っているという強い思いが事業となりました。



第二回新会員セミナー

3月18日、小樽市公会堂1号集会室にて第二回目となる、新会員セミナーを開催しました。この事業では新会員が北海道地区協議会や日本青年会議所の組織や事業について理解すると共に、今後の遠征や出向に対して意義を感じ、積極的に臨む意識を高めることを目的として指導力開発委員会の設えのもと行われました。第一部プレゼンテーション「出向者による組織と事業」では、冒頭に前回のおさらいを含め、小樽青年会議所の組織や各委員会の役割について学びました。また小樽青年会議所と比較しながら、北海道地区協議会や日本青年会議所の組織や事業、各地遠征や出向の意義について学びました。また第一部プレゼンテーションの中で、三名のメンバーからそれぞれの出向や遠征に対する想いを発表していただき、プレゼンテーションでは伝えきれない心境について話していただきました。第二部は「出向経験から感じた遠征や出向の意義」と題し、山本直前理事長にご講演をいただき、ご自身の豊富な出向経験における体験談とその経験によって得られたつながりや自己成長について、ご講演していただきました。この事業を通し、各地遠征に参加することや出向することの魅力が

新会員には勿論のこと、我々メンバーも改めて感じさせられた事業となりました。

第三回新会員セミナー

4月19日、小樽商科大学3号館413教室にて指導力開発委員会担当による、第三回となる新会員セミナーを開催しました。このセミナーでは新会員に対し、「背景と目的の重要性」議案書を学んでステップアップ!と題し、事業承認に至るまでの過程や議案書の内容について伝え、事業の背景や目的を明確にすることの重要性を認識することを目的として開催されました。第一部プレゼンテーション「事業の成り立ちと議案書の基礎知識」では、議案書作成に要する知識や考えを学ぶとともに、目的を明確にすることの重要性を理解し、新会員が今後の青年会議所活動において、背景や目的を意識した有意義な活動を行うことが可能になるという阿部委員長の想いが伝えられ、第二部の模擬議案書作成「議案書を作成してみよう」では、プレゼンテーションにて模擬議案書作成の説明し、参加メンバー全員で模擬議案書の作成を行いました。作成後、新会員の模擬議案書が回収され、パワーポイントで自分たちの作った模擬議案書を新会員が上程しました。模擬議案書の作成を行うことで、第一部で学んだ内容の理解を深めることのできた事業であり、我々入会年度の浅いメンバーも議案書の内容について学び直す事業となりました。

5月オーブン委員会

5月12日、伊藤晴竹委員長率いる会員交流委員会による、お花見ジンギスカンパーティーin天上寺くお寺DE遊ぼうくを開催しました。普段から我々が青年会議所活動をしていけるのは家族の協力があるからであり、これからも家族からの理解と協力を得るために、青年会議所が普段どのような活動を行っているかを家族に知っていたら、と共により、家族も楽しめる組織であるという認識を持っていた。交流の場を設えてくれました。ジンギスカンを食べ、家族と一緒に子供達に作り、本堂内にて子供達が喜ぶようなファンクション、また、この日は母の日ということもあり、サプライズでカーネーションを子供達の手からお母さんへプレゼントするシーンなどがありました。二時間という短い時間でしたが、家族が喜ぶ顔が見ることができ、メンバーにとっては癒しとなる濃厚な時間となりました。これを機にメンバーの家族が我々の活動に理解を持ってくれること、またメンバーの活動の活力になる事業になったことと思います。



JCFフォーラム

5月18日、サッポロファクトリーにて日本青年会議所北海道地区協議会が運営するJCFフォーラム2019に参加してまいりました。持続可能社会創造フォーラム、民間防災推進フォーラム、北海道経済創造フォーラムなど、様々なファンクションがあり、小樽青年会議所からは渡邊監事、若崎出向理事、酒井委員、稲垣委員が出向しているということもあり、応援に行きまいました。これから起こりうる、人口減少問題や災害、それに対する対処法や先進的な取り組みを学ぶことで自分達の引き出しとなりました。

5月第一例会



5月22日、無尽ビル3F大ホールにて指導力開発委員会担当による、5月第一例会「未来を形創る決断と行動く他愛の心が持つ可能性」を開催しました。第一部基調講演「市長という決断」では小樽市長である迫俊哉様をお招きし、生い立ちや経歴を織り込みながら、市長選への立候補という重い決断に至るまでの過程や心境について、また、市長として激務をこなす中で、原動力につながるものとは何か、人のために発揮できる力とはどのようなものかをお話しいただきました。次の第二部パネルディスカッション「JAYCEE Eとしての在り方く責任世代の

我々だから出来ること」では迫市長、鹿角理事長とのディスカッションが行われ、コーディネートとして阿部委員長が務めました。メンバーからの事前アンケートの結果をスクリーンに映しながら、行政の中心人物である小樽市長からの視点、民間団体である小樽青年会議所の理事長としての視点、それぞれの視点からお話しをいただき、実際に民意を行動に移して、行政に働きかけることで、行政を動かすことも可能であることを実感するとともに、地域の未来を構築していくために、己の目先の利益だけではなく、人のために決断と行動をすることの重要性を認識できた事業となりました。



出向報告1

私自身これまで多くの出向をさせていただき、その中で2013年に出向させていただいた経験は今でも対外と接する基本となっています。本年、日本青年会議所を筆頭に、全国の青年会議所メンバーは、今まで聞いたこともないSDGsを真剣に学び、その知識を各地域や社会の中で実行へ移すべく活動を繰り広げています。私自身SDGs推進会議に出向し、全国各地メンバーと真剣に地域のことを語り合い、先進的な取り組みを経験することができたことは非常に貴重な経験となっています。

多くの体験や学ぶ機会を沢山いただいたので、その知識を小樽青年会議所に繁栄するため頑張りたいと思います。そして、今回経験して感じた事は小樽も地区も日本も同じで、行動しない人間は何処に行っても行動しない、逆をいうとやる気のある青年会議所メンバー同士が集まる場所に行けば、その力は絶大なのだと実感しました。本年、出向させていただいた鹿角理事長に感謝し、2013年に出向先で感じた、対外と接する際には「新しい仲間と自分自身を成長させる醍醐味」を楽しめるよ

ように残り半年間活動して参ります。

公益社団法人 日本青年会議所

SDGs推進会議

委員 大川晃弘



出向報告2

今年度、道南エリア運営会議ではアカデミー塾生に対し、SDGsについての意識共有の醸成を行い、問題解決に向けた仕組みを考える機会を創出し、JC運動への参加意欲の向上とJAYCEEとして、連携を深め、各地域における運動の中心となって、課題を解決できる、資質と魅力を兼ね備えた人材を育成する場を用意することで、昨今、会員が減少している中、道南エリアに属する各LOMにとって即戦力となる人材の育成に力を注いでいます。

この先、アカデミー塾生同士で交流をはかり、絆を深め合う場を

創出し、LOMの垣根を飛び越え積極的に情報交換などしていただく機会を作りますが、自分に与えられた役割をしっかりと果たして参りたいと思います。

北海道地区協議会 道南エリア運営会議

副議長 渡邊 純一



出向報告3

今年、道南エリア拡大特命会議に幹事として出向しています。拡大特命会議ということで主な活動としては、道南エリアの各LOMと連携しながら会員拡大に取り組んでいます。今年の三月には4エリア合同での拡大セミナーを開催、日本JCシニアクラブから講師をお招きし拡大についてのノウハウを学ぶ場を設けるなど、会員拡大のサポートをする活動をして

おります。会員拡大という各LOM内の活動に外から関わることで、その難しさや工夫の仕方などを学ばせていただきました。今回出向することで得た経験や、多くの方との出会いが自身の成長につながると 생각합니다。僕はまだ残り12年あります。その12年の中では会員数の問題というのは絶対についてくる課題です。今年も残り半分ですが、今回出向して得たものをしっかりと持ち帰り今後のJC活動、会員拡大に活かしていこうと思います。

道南エリア拡大会議

幹事 稲垣 孝臣



じゃがいもクラブ ハワイサーキット報告

本年度、小樽JCじゃがいもクラブは、毎年春に行っているサーキットが50周年を迎え、2月17日よりハワイの地へ遠征して参りました。先輩の皆様、現役メンバー、また、かずさ青年会議所からも多くの方が参加され、総勢35名で素晴らしいゴルフ場にて、ゴルフをさせていただき、懇親を深めて参りました。ご参加いただきました皆様、誠にありがとうございます。

また、私はキャプテンという立場でサーキットに関わらせていただき、カポレイゴルフクラブにて人生初となるホールインワンを達成し、一生の思い出をつくらせていただきました。

じゃがいもクラブは、ゴルフを通して現役メンバーと先輩が交流を深めることができる数少ない場です。本年度残り5回の例会を通して、楽しい一年間を過ごして参りたいと思います。

キャプテン 中村 圭助



北運河ルネサンス2019に向けて

2015年に（一社）小樽青年会議所60周年記念事業として開催された「北運河ルネサンス」を今年度も8月24日（土）、25日（日）に開催する運びとなりました。例年イルミネーションバルーンで会場を彩り、2017年には日本遺産登録に向けて小樽JCとしての提言を示す「小樽遺産ツアー」、2018年度には郷土愛育成委員会による、「郷土愛プロジェクト、ギネス世界記録に挑戦」を同時に行い、観光客のみならず、市民にも北運河地区の魅力を伝え、多くの可能性を示すべく取り組んでまいりました。

今年度は4月に実行委員会が立ち上がり、開催に向けて協議を続けております。2023年に建設100年を迎える小樽運河の原風景を残し続けている北運河エリアにさらに多くの方々が興味、関心を持ち、小樽観光の更なる広域化、発展の一助となるべくメンバー一丸となって来場された方々の笑顔を創出いたします。当日は本年のメイン事業でもある持続可能な地域創造委員会事業との同時開催も予定しており、詳細が決まり次第、HP、SNS等で情報発信を行ってまいりますので、多くの

ご来場並びにご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

実行委員長 天野 孝太郎





- ①生年月日
- ②血液型
- ③勤務先
- ④役職
- ⑤会社住所
- ⑥趣味



よしもと こうすけ
吉本 幸介

- ①S57年8月23日
- ②B型
- ③センチュリー21
ハウスバンク(有)
- ④アドバイザー
- ⑤小樽市稲穂2丁目18-1
- ⑥野球



さくらい しょうた
櫻井 翔太

- ①H1年10月1日
- ②O型
- ③北海道信用金庫
- ④主任
- ⑤小樽市稲穂1丁目4-10
- ⑥野球



たかの よういち
高野 洋一

- ①S54年6月5日
- ②A型
- ③ベンジー高野商事(株)
- ④
- ⑤小樽市緑1-10-3
- ⑥キャンプ・サーフィン・映画



こうりん なおき
香林 直樹

- ①S61年6月15日
- ②A型
- ③住友生命保険相互会社
- ④札幌支社 小樽支部長
- ⑤小樽市花園2-5-6
- ⑥スキー・ロードバイク



たけだ きょうへい
竹田 恭平

- ①H4年9月4日
- ②B型
- ③MAGIC BAR Packet
- ④代表
- ⑤小樽市花園1-9-26第2小川ビル
- ⑥ルービックキューブ



いなよし さとし
稲吉 聡

- ①S54年12月13日
- ②A型
- ③キッチンバーコリンズ
- ④代表
- ⑤小樽市花園1-12-20
- ⑥音楽・映画鑑賞

小樽J C 下半期スケジュール

7月20日～21日	サマーコンファレンス
7月26日～28日	7月第一例会(潮まつり)
8月8日	8月第一例会(新夏例会)
8月24日～25日	北運河ルネサンス2019
9月6日～8日	地区大会北見大会
10月10日～13日	全国大会富山大会
10月16日	10月第一例会
11月4日～8日	JCI世界大会
11月14日	11月第一例会(54年組を送る会)
12月2日	12月第一例会(次年度アワード)
12月15日	12月第1例会(豪華賞例会)
	クリスマス家族会

信念ある決断を～人々が幸せに生きる小樽の創造に向けて～

JCI 一般社団法人 小樽青年会議所
Junior Chamber International Otaru



アドレスまたはQRコードからHPへアクセスできます。
<http://www.otaru.jc.or.jp/>

総務委員会 委員長
遠藤 雅光

今後ともよろしくお願い致します。

編集後記

広報紙「いぶき」創立64周年記念号を発行させていただきました。

当委員会では引き続き、ホームページ、SNSを通して、2019年度(一社)小樽青年会議所の活動を多くの方々知っていただけるよう、広報活動を行ってまいります。